

地域保健関係職員研修における専門研修の実際
 ～ 公衆衛生看護管理研修を生かした保健活動評価研修 ～

岩手県二戸保健所 ○稲葉洋子 吉田 篤 佐野 謙
 二戸市役所 田口美喜子 一戸町役場 田村由美子
 国立保健医療科学院公衆衛生看護部 島田美喜

I はじめに

管内市町村から『保健活動評価にかかる力量(形成)向上』を図るための研修開催について一致した要望があったことから、今年度の当該研修のテーマとして取り上げることとした。

演者は今年度、国立保健医療科学院における特別課程公衆衛生看護管理コースを受講する機会を得たことから、その成果を生かし、研修の企画を行った。

本研修の特徴は、研修の企画段階から管内保健師の参加を求め計画・実施・評価に至る研修運営の全体を共有した。これは人材育成も含め研修の一環として実施したほか、特に研修の評価指標を明確にし実施したところ、受講者から評価が得られたので、その概要を報告する。

2 公衆衛生活動における評価(指標の設定)

評価指標の設定	
実 施 評 価	① 実行段階(シリーズ研修毎)での参加人数
	② 研修内容の理解度
	③ 受講者の反応—アンケート意見感想欄の記載
	④ 管内各市町村保健師長の反応
結 果 評 価	① 管内保健師数に対する継続参加割合
	② 受講者自身の目標達成及び満足度
	・ シリーズ研修への期待、満足度
	・ 受講目標を持って参加したか
	・ 自己目標の達成度
③ 研修目標にかかる達成度	
・ 健康課題の明確化、言語化できる	
・ 「いきいきと仕事する」への研修効果	
・ 平常業務、保健活動への活用意向	
・ 同活用への自信度	
・ 社会動向への関心、担当業務との関連	

※ 「企画評価」における指標は、省略した。

II 専門研修の企画体制及び研修評価計画

1 地域保健関係職員専門研修企画等会議

研修をより効果的に実施するため、管内市町村所属新任保健師2名を研修企画委員とし、新たに『企画会議』を開催した。

2 研修計画及び各段階による評価の設定

- (1) 新たに要領を作成、シリーズ全4回とした。
- (2) 企画の評価—根回し、課題把握、プログラム
 研修教材及び各種様式の開発
- (3) 実施の評価—受講者感想、表情、アンケート
- (4) 結果の評価—研修後アンケート、インタビュー

III 結果

1 企画での工夫

- (1) 企画体制：市町村から企画委員の選任
- (2) 研修方法：研修リーダーのもと、演習を中心にし、シリーズ毎のアンケートにより修正を行った。
- (3) 外部講師の活用：関連する理論及び根拠
- (4) 既存資料の活用及び教材開発：地域活動スキル(改定版)を用い獲得すべき力量を提示、研修導入イメージマップ資料及び様式の開発等

IV 考察及びまとめ

今回、企画委員と共に本研修の企画及び評価指標を明確にし、研修方法の検討、教材開発等を行った結果、受講者の依存的な姿勢が軽減された。また、新任保健師による地区診断発表が刺激となり、以下の評価が得られた。

- (1) 自己目標を持って参加した者が8割以上
- (2) 演習型の研修は実になることが大きいと感想、9割以上が業務活用に自信あると回答

研修の結果、評価に受講者のその後として、業務活用の実施状況を追跡していくこと等により、客観的な効果の評価に基づいたプログラムの変更が必要である。各所属から専門職員研修に求められるものは受講者の発揮能力のレベルアップと実務に活用、貢献できているかとの点である。

今後、業務調整の難しさや少人数配置により発展的な気持ちも育ちにくい問題もあるが、保健活動課題の解決に向け効果を上げるよう努力したい。

【様式】研修用ワークシート：保健活動計画評価

所属等

健康課題	あるべき姿								
事業名	対象及び対象数								母集団
目的									根拠
目的達成のための具体的目標	評価指標（左の目標達成カール）	方法	事業内容						
		実績 モニター 総合							
まちの基本目標	関連事業							
施策目標									
根拠等 計画名									

桜井保健所地域保健関係職員等研修会

目的	目標	評価指標
<p>1. 高取町の高齢者が家に閉じこもることなく、気軽に楽しく仲間と話せるような地域づくりのためいきいきクラブを実施する。</p>	<p>①参加者がいきいきクラブ参加中に1度は大笑いすることができ ②参加者同士が仲間をつくることができる</p>	<p>①-1参加者が大笑いできるような場(雰囲気)が提供されたか。 ①-2参加者が大笑いできるような教室内容を提供されたか。 ②-1参加者が教室内容に熱心に来しく参加している姿がある。 ①-1参加者同士が話をする場や機会を設けたか。 ①-2参加者が仲間づくりができるような教室の内容を提供できたか。(工夫できたか) ①-3教室の目標を参加者と共有できたか。 ②-1参加者同士が声をかけ合っている姿がある。 ②-2参加者が自分から積極的に話しかける姿がある。 ②-3参加者が教室の内容に合わせお互いに助け合う姿がある。 ③参加者がいきいきクラブを楽しみ参加できる</p>
<p>2. 高取町の住民が高齢者を地域で支えていくという意識がもてるような地域づくりのためにいきいきクラブを実施する。</p>	<p>①高取町の住民がいきいきクラブを行っていることを知っている。 ②高取町の住民が高齢者の集まる場所や機会を知っている。</p>	<p>①-1いきいきクラブを実施していることをPRしたか。 ①-2いきいきクラブの実施内容を住民にPR(発表など)したか。 ②-1いきいきクラブの内容について住民が関係者に聞く姿がある。 ②-2いきいきクラブの楽しさを参加者が家族や友人等に伝えているか。 ①-1スタッフが高齢者の集う場や機会を住民にPRしたか。 ①-2上司・スタッフ間でいきいきクラブの必要性を共通理解できたか。 ②-1住民が高齢者の集う場や機会を聞く姿がある。 ②-2住民が高齢者の集う場や機会に参加(支援)している姿がある。 ②-3住民が地域の住民にいきいきクラブへの参加を呼びかける姿がある。</p>

いきいきクラブ評価

実施日：平成14年11月20日(木)

実施内容：秋の大運動会

参加者：14名(58.3%)

評価方法：5段階評価(点)

(5：十分行えている 4：まあまあ行えている 3：どちらともいえない 2：あまり行えていない 1：行えていない)

評価指標	評価
①-1 参加者が大笑いできるような場(雰囲気)が提供されたか。	①-1 5点 (理由) 1. スタッフが各チームに1名補助に入ること場で盛り上げることができた。 2. チーム対抗戦だったのでお互いに対抗意識をもち、チームの団結が芽生えた。
①-2 参加者が大笑いできるような教室内容を提供されたか。	①-2 5点 (理由) 1. 教室の内容が参加者に適していた。
②-1 参加者が教室内容に熱心に参加している姿がある。	①-3 5点 (理由) 1. 全員がプログラムに参加することができた。 2. 率先してゲームに参加する姿が見られた。
①-1 参加者同士が話をする場や機会を設けたか。	①-1 4点 (理由) 1. 相手チームの動きを見て作戦を練るなど、チーム内でお互いに話す姿が見られた。 2. 友人としか話をしない人もいる。(クジによるチーム分けを嫌がる。)
①-2 参加者が仲間づくりができるような教室の内容を提供できたか。(工夫できたか)	①-2 4点 (理由) 1. チーム全体で行うプログラム内容を組んだ。
①-3 教室の目標を参加者と共有できたか。	①-3 2点 (理由) 1. 教室の目標的なものを参加者は知らない。(行政がやっているものに参加するという意識のみ) 2. 教室の目標のPR不足。(プログラム内容に入る前に簡単に説明必要か。)
②-1 参加者同士が声をかけ合っている姿がある。	②-1 4点 (理由) 1. チーム内で応援する姿が見られた。

<p>②-2 参加者が自分から積極的に話しかける姿がある。</p> <p>②-3 参加者が教室の内容に合わせお互いに助け合う姿がある。</p>	<p>②-2 3点 (理由) 1. 親しい友人しか話をしない方もいる。(性格もあるのでは) 2. 今回、初参加の方1名は積極的に話しかけていた。(教室参加の目的が友人を作りたい。) 3. 参加者によって教室参加の目的が違う。</p> <p>③-3 4点 (理由) 1. 教室の内容が適していた。</p>
<p>①-1 参加者が楽しめる教室内容が提供されたか。</p> <p>①-2 参加者の希望に添った教室内容が提供されたか。</p> <p>①-3 参加希望者が参加しやすいような教室運営がされているか。</p> <p>②-1 参加者が教室中を楽しそうにしている姿がある。</p> <p>②-2 いきいきクラブの年間参加者数が増加する。</p> <p>②-3 いきいきクラブを楽しみにしているという声に参加者からある。</p>	<p>①-1 5点 (理由) 1. 教室の内容が適していた。</p> <p>①-2 3点 (理由) 1. 参加者に教室の希望を聞くことが少ない。(参加者の反応に合わせてスタッフ間で話し合いプログラムを決定している。)</p> <p>①-3 2点 (理由) 1. 他の行事と重なり教室に参加できない方が今回は多くいた。ある程度、参加者の参加しやすい日を確認することが必要ではないか。 2. この教室は送迎を行っているが知らない方がいる。PR不足。</p> <p>②-2 3点 (理由) 1. 参加希望人数は昨年とほぼ同数。</p> <p>③-3 4点 (理由) 1. 参加者の中から「楽しみにしている」等の声をよく聞く。また、スタッフや食推作成のお菓子も毎回好評を得ており楽しみにしている方もいる。</p>
<p>①-1 いきいきクラブを実施していることをPRしたか。</p> <p>①-2 いきいきクラブの実施内容を住民にPR(発表など)したか。</p>	<p>①-1 2点 (理由) 1. 参加希望の申込を兼ねて広報に載せるが見ていない方が多いのではないか。(年に1回)</p> <p>①-2 4点 (理由) 1. 今年度は、町の文化祭に作品を出展。いきいきクラブの実施内容のPRに努めた。 2. 住民さんの中から作品を見たとの声が聞かれた。</p>

いさいきクラブ評価方法：5段階評価（点）

評価指標	評価
<p>①-1 参加者同士が話をする場や機会を設けたか。</p> <p>①-2 参加者が仲間づくりができるような教室の内容を提案できたか。（工夫できたか）</p> <p>①-3 教室の目標を参加者と共有できたか。</p> <p>②-1 参加者同士が声をかけ合っている姿がある。</p>	<p>②-1 4点</p> <p>(理由) 1. 相手チームの動きを見て作戦を練るなど、チーム内でお互いに話す姿が見られた。</p> <p>2. 友人としか話をしない人もいる。（クジによるチーム分けを嫌がる。）</p> <p>②-2 4点</p> <p>(理由) 1. チーム全体で行うプログラム内容を組んだ。</p> <p>④-3 2点</p> <p>(理由) 1. 教室の目標的なものを参加者は知らない。（行政がやっているものに参加するという意識のみ）</p> <p>2. 教室の目標のPR不足。（プログラム内容に入る前に簡単に説明必要か。）</p> <p>⑤-1 4点</p> <p>(理由) 1. チーム内で応援する姿が見られた。</p>

<p>②-1 いきいきクラブの内容について住民が関係者に聞く姿がある。</p> <p>②-2 いきいきクラブの楽しさを参加者が家族や友人等に伝えているか。</p>	<p>②-1 1点 (理由) 1. 時々内容を聞かれる回数自体少ない。PR 不足ではないか。</p> <p>③-2 3点 (理由) 2. 参加者の中にはいきいきクラブの中で作成した作品を家に飾り、友人や親類にいきいきクラブの内容を教えているとの声を聞いた。</p>
<p>①-1 スタッフが高齢者の集う場や機会を住民にPRしたか。</p> <p>①-2 上司・スタッフ間でいきいきクラブの必要性を共通理解できたか。</p> <p>②-1 住民が高齢者の集う場や機会を聞く姿がある。</p> <p>②-2 住民が高齢者の集う場や機会に参加(支援)している姿がある。</p> <p>②-3 住民が地域の住民にいきいきクラブへの参加を呼びかける姿がある。</p>	<p>①-1 2点 (理由) 1. いつ、どのような方法でをスタッフ間で共通理解する必要があるのでは。(効果的なPR)</p> <p>2. 住民さんから住民さんへのPR方法を検討する必要があるのではないか。</p> <p>①-2 点 今年度事業終了後確認する。</p> <p>②-1 点 今後他の事業などで確認する。</p> <p>②-2 点 今後他の事業などで確認する。</p> <p>②-3 点 今後他の事業などで確認する。</p>

第1章 評価ってどんなこと？忙しい人のために（第1章と第2章をまとめました・・・）

1 評価について考えてみましょう
「評価」とは何も特別なことをするわけではありません。もつと、気楽に身近なものとして「ヒョーカ」を考え直してみよう。

4 評価の実施に向けた体制づくり
評価計画や評価の検討を円滑に行っていくための体制づくり（母子保健計画の進行管理組織で評価計画や評価の検討がベター）。

3 評価の手順（次年度以降）
(3) 評価の実施に向けた体制づくり等
① 母子保健計画の進行管理をしていく組織で「評価計画」の承認
② 「母子保健計画」・「評価計画」の概要に対する住民からの聞き取り。(2)の時期は、どのように住民を巻き込んでいくかによって違う)
③ 事業の実施・評価の実施、住民の調査への参加
(4) 評価の実施後の検討と母子保健計画へのフィードバック
① 「母子保健協議会」等での評価結果の検討
② 住民への評価結果の報告・住民との話し合い
③ 母子保健サービスの検討・改善
④ 母子保健計画の見直し（新しい目標の設定）

3 評価の手順（初年度）
母子保健計画策定後の「評価計画」を盛り込む方法。
(1) 評価の準備事項
① 担当者間での話し合いや事前学習 ③ 住民参加
② 評価の組織体制づくりや目的の話し合い ④ 情報収集
(2) 評価計画づくり
① 評価の体系図づくり（本文ステスアップ1-9参照）
② 評価の体系図を利用して評価の体系図の作成。
③ 母子保健計画の重点目標の明確化
④ ワークシートを利用しての目標と事業の整理
⑤ 重点目標と事業をつなぐ指標の設定
⑥ 各事業の目標値・測定方法の設定
⑦ 母子保健事業の要綱づくり
⑧ 母子保健事業の評価方法の整理
⑨ 母子保健事業の追加作業（年次計画・ダイジェスト版作成）
⑩ その他必要な追加作業

2 評価はどうして必要なのでしょう？
私たちが取り巻く状況は、効果のない事業を燃然と行っていることが許されない状況にあると云える。
的確に「評価」することができればより効果的な事業とそうでない事業が見えにくくなるはず。そして、その「評価方法」が客観的・科学的であればあるほど、対外的にも説得力のある使える「評価」となる。

5 モデル町での取り組みを通して
事業を効果的に行っていくためには「評価」をしていくことは遠回りに思えるが実は近道...



3 評価にはどんなものがあるの？
いつ（計画の時期）
だれが（評価の主体）
何のために（評価の目的）
行うのか。
「どんな評価がしたいか」にこだわれば、「評価」への道障が少しずつ見えてくるはずである。

4 評価と計画
「計画」は「評価」を伴ってこそ生かされる。「評価」を伴わない「計画」は絵に描いた餅になってしまう危険性がある...

第2章 母子保健サービス評価の準備

1 なぜ「評価」には準備が必要なの？
この手引きで言う「評価」の目的とは、各市町村で策定した母子保健計画の目的に向かって各母子保健サービスがどのくらい効果的に実施されているかを早見できるようにするのであり、各市町村が実施する自己評価である。「評価」の準備として「評価計画」を作成しよう。
「評価計画」とは「評価計画」と「評価計画」は事業の集合体であり、各事業の目的が達成される時には、更にその上にあるコア目標である母子保健計画の目的も達成されることになる。そのためには、めざすべき目標と事業が対応していないといけない。またどんな情報をどんな時に誰からとっていただくための事前準備」のことである。

2 母子保健計画のバージョンアップ
「評価計画」は母子保健計画に含まれる要素であり、母子保健計画策定時に本来は一緒に作成しておくべきものである。しかし、後からでも盛り込んでいけるものでもある。

母子保健計画のバージョンアップとは
「評価計画」をたてる中で母子保健計画策定プロセスでの弱かった点・内容が不足していた点・曖昧にしていた点が見えてくる。
そこに「評価計画」を付け加えるというだけでなく、こうして「評価計画」を補完したり、明確にしていくことで「母子保健計画」そのものがバージョンアップしていくことになる。

第1章 評価実施の考え方と進め方

1 評価の目的と最終ゴール

評価の目的や評価計画の内容をもう一度見直し、自分たちが目指す評価、そして評価をとおして何を最終のゴールにするのかを確認しましょう。

(モデル町での最終ゴール)

評価を繰り返す過程で、その結果が保健活動へ活かされ、新たな活動へと改善されていくことにより、母子保健計画の目的が達成されていくこと。

1 事業評価の実施

評価を行う場合は、各事業ごとに

- 事業目的・評価指標・目標値・測定方法の確認・整理を行う。
- 測定結果から得られたデータをもとに目標の達成状況を整理する。
- 分析結果から、「今後の事業のあり方」をまとめる。

以上の一連の作業が事業の「評価」になる。また、評価結果を関係者で話し合うことにより、事業改善につながる。

モデル町では、「測定方法」から得られた結果を総合的に分析して評価結果を導き出すために「事業改善のための評価シート」を作成しました。

第3章 評価のまとめと改善

3 その他の測定方法

(1) 事業におけるアンケート調査

例「赤ちゃんがいっしょに活動」
特定の事業の効果を把握する方法です。

(2) 事業実績

事業実績は業務の状況把握に有効な方法ですが、必ずしも単独で評価測定方法ではないことに注意。

2 評価の進め方についての話し合い

計画的に作業を進め、着実に「評価」を行っていくためには、関係の職員が認識を共有し協働体制をキチンと整えることが必要です。そのための話し合いがとても大事なことです。

(話し合いの項目)

- 評価の進め方や役割分担について
- 予算の状況と配分の確認
- 協議会等の設置と会議の開催日程について

※、以上のことを、「一覧表やスケジュール表」にまとめておくことにより。

2 評価結果の今後の活用 (評価活動の成果)

各事業ごとに行なった「評価」と、自分たちが最初に確立した「最終ゴール」とをどのように結び付けるかが大切です。「最終ゴール」とは常に「Plan-Do-See」のサイクルとともにあります。

モデル町で今回「評価計画」に基づき実施評価を行ったことと、新たな活動に向けてどう改善すべきかが見え、自信を持って進めたいけいようになっただけで、まだ大きな収穫でした。



2 インタビュー (聞き取り調査)

(事例)「養護施設への聞き取り調査」

ステップ1 ⇨ インタビューの目的の明確化
ステップ2 ⇨ 目的に沿った内容の検討
ステップ3 ⇨ インタビュー実施・集計・活用

インタビュー調査の場合も、その目的を念頭に置いて質問項目を整理するが、アンケート調査とは違って質問項目を自由に意見が聞けるよう工夫する必要がある。

3 タイムスケジュールの作成

評価計画に定めた評価のための測定方法ごとに、一連の作業をスケジュール表にまとめましょう。

モデル町では、スケジュールに沿って行った調査を、その目的の重要性からより定期的な取り組みが必要であるとし、当初のスケジュール表を調整した。

このように、本来の目的は何なのかということに常に立ち返り、アンケート等を実施することそのものが目的となってしまうないように、時には思い切ったスケジュールの変更も必要です。

4 体制づくり (住民参加)

内部的に理解を求め、体制を整えることはもちろん必要ですが、担当部署の職員以外の関係者 (住民を含む) を巻き込んでいくことも重要で。

モデル町では、評価計画や評価後の分析結果及び評価状況を協議していく場として「母子保健連絡協議会」を設けました。

このような協議会に、住民代表による「部会」を組み入れていくと、

- より多くの住民の意見を取り入れることができる
- 住民に活動の担い手としての自覚が生まれる

などの効果が期待でき、行政への住民参加を促進する方法として有効な手段ともなります。

第2章 評価計画に基づく測定方法

1 標本調査

(事例)「育児アンケート調査」

ステップ1 ⇨ 調査目的の明確化
ステップ2 ⇨ 調査対象・方法・時期・費用の決定
ステップ3 ⇨ 調査項目の決定
ステップ4 ⇨ アンケート調査の実施・集計・活用

無数の強力なデータを集める必要は、母体がないように注意しましょう。

表10-3

母子保健計画の推進（進行管理）プロセス

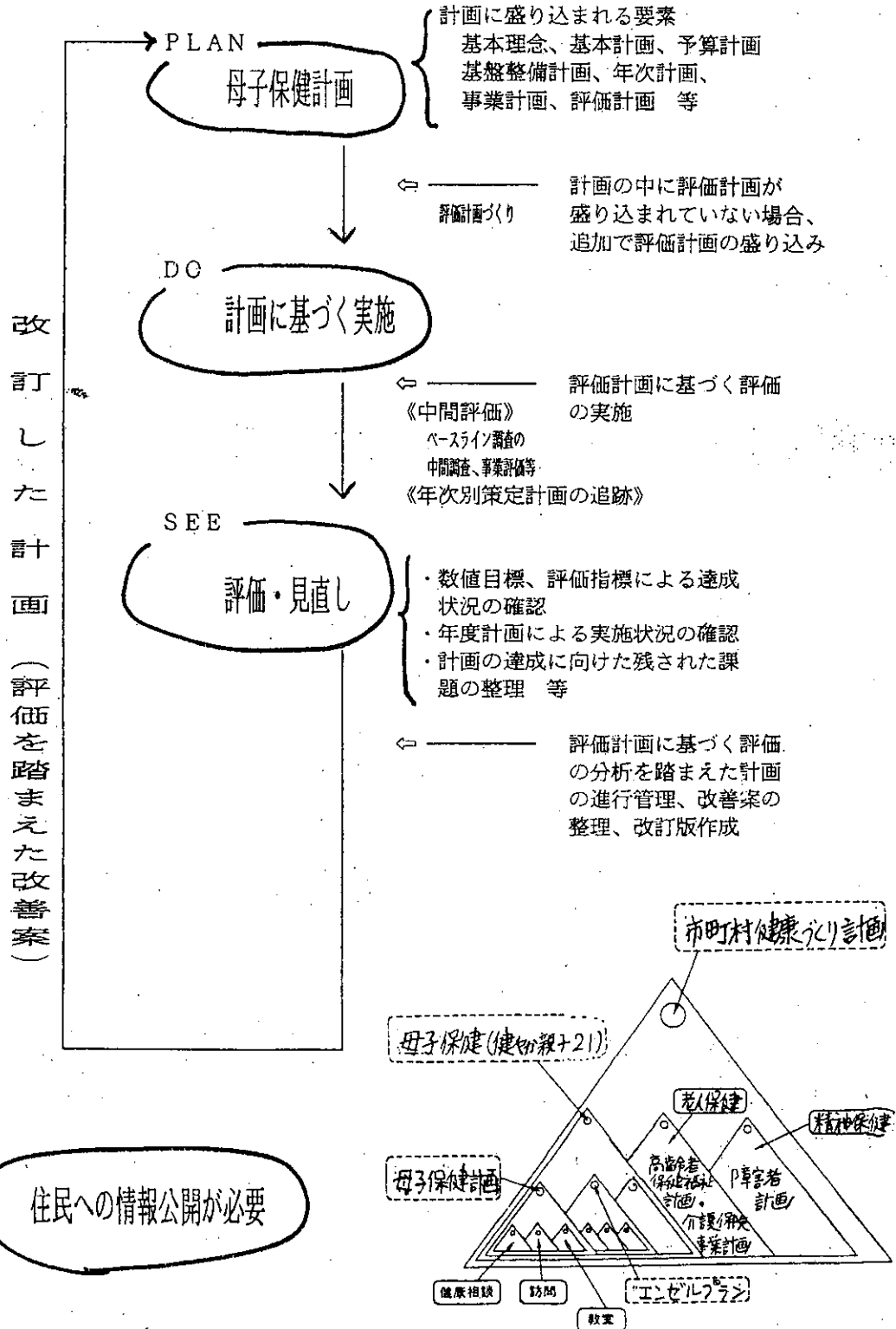


表10-5

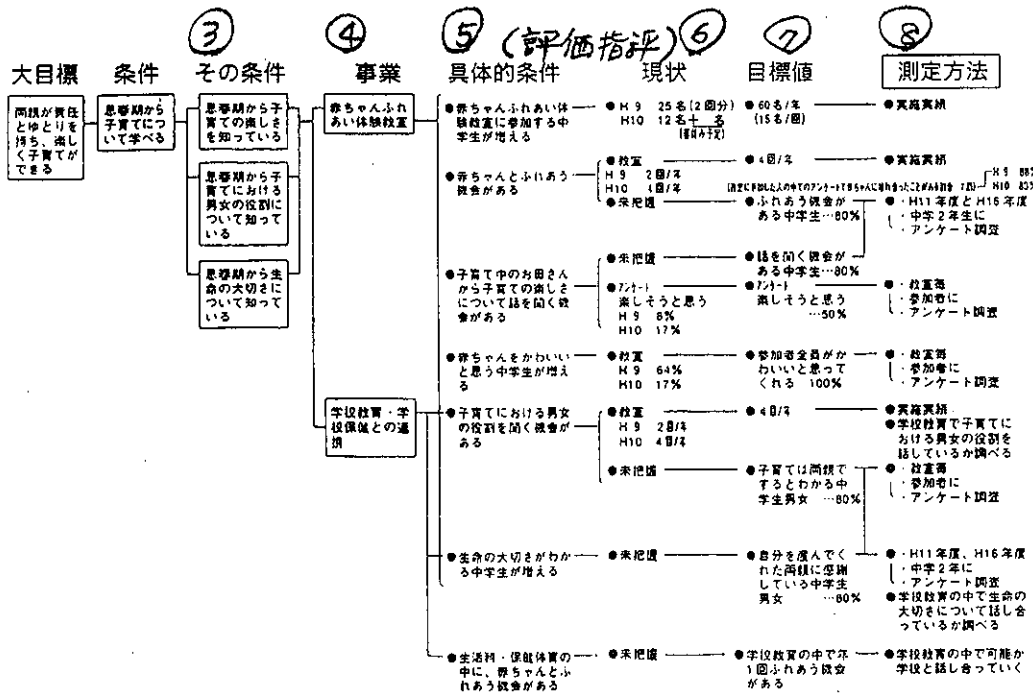
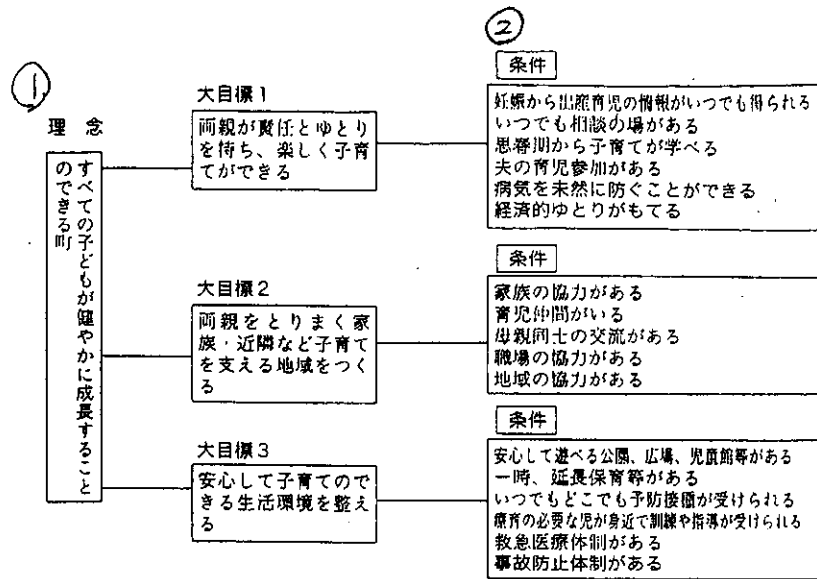


表10-7

事業改善のための評価シート

(平成12年2月作成)

事業名	赤ちゃんふれあい体験教室				
目的	大目標：両親が責任とゆとりを持ち、楽しく子育てができること その条件：①思春期から子育ての楽しさを知っている (目標) ② " 子育てにおける両親の役割について知っている ③ " 生命の大切さについて知っている ④ " 育児は大変なので両親で育児を知っている中学生が増える				
達成状況(現状)及び目標値	評価指標名	平成8年度	(12年1月末)平成11年度	目標値	測定方法
○直接事業に関する指標 ▲地域全体から事業を捉えた指標	○教室に参加する中学生が増える ()内が中学校全体からの受講率	年25人 年2回開催 (7.7%)	年21人 年4回開催の2回 (6.7%)	年60人 年4回開催 (15人/回23.1%)	実施実績
	○赤ちゃんふれあう機会がある(増える)	年2回	年4回 ↑	年4回	実施実績
	▲ふれあう機会のある中学生の割合	未把握	未把握	80%	中2のアンケート
	○子育て中の母から子育ての楽しさについて話を聞く機会がある(増える)	楽しそうと思う 機会ある中学生 15.4% 未把握	81.8% ↑ 未把握	50% 80%	教室参加者アンケート
	赤ちゃんをかわいいと思う中学生が増える	○教室参加者がかわいいと思う ▲かわいいと思う中学生 76.9% 未把握	100% ↑ 未把握	100% 100%	参加者アンケート 中2のアンケート
	子育てにおける両親の役割を聞く機会がある(中学生率) ▲	○教室 (子育ては両親ですという話を聞く中学生率) 2回/年 未把握	4回/年 ↑ 未把握	4回/年 80%	実施実績 中2のアンケート
	▲生命の大切さがわかる中学生が増える	未把握	未把握	80%	中2のアンケート
	○教室に男の子の参加者が増える	4人(16%)	0人(0%)	40%	実施実績
	○育児はたいへんなので両親で育児することを知らない中学生が増える	大変 68%	大変 85.7% ↑ 子育ては両親で87%	100%	参加者アンケート
	評価結果と課題	教室参加者に対する前後のアンケート 各指標が上がった。 参加者の特性として意識の高い子の参加が多かった。 課題：3月実施の教室結果と併せてから再検討。			
	中学2年生全員へのアンケート アンケートは延期。理由：学校保健の現状把握を行ってから実施する。 今年度は養護教諭へのインタビューにより状況を確認できたので、次年度養護教諭との話し合い等により実施する。				
	実施実績 開催回数(目標値に対して)100% ↑ 全体参加率6.7% ⇒ 男の子の参加率0% ↓ 3月実施の教室実績とあわせる。				
今後の事業あり方	継続-このまま 改善して 廃止-他事業で対応 (中止) 他機関で対応 他課関連事業で対応 新規事業にシフト 目標達成のため				
今後の改善点	○指標は上がっているが、目標値まで達成していない指標もある。 ・事業の目的を達成するためには、目標値を達成するために以下のような改善を行いながら事業を継続することが必要である。 ○学校教育・学校保健との連携の充実 ○教室対象となる中学2年生の意識把握のためのアンケートを企画 ○教室参加者数を上げるための対策を検討。				

市町村との協働事業が成功した要因及び課題

<要因>

- ・手引きというたたき台を作ることができ、それを教材にした研修機能を使って市町村に理解してもらうことが出来た（動機づけがうまくいった）
 - ・互いの信頼関係の確立までの保健所と市町村との十分な話し合い、共有化の時間の確保（確立すると市町村が必要時連絡をくれるようになる）
 - ・共に考えて方向性を決めていく、双方向生でのやりとり（主体は市町村。どう考える力を付けてもらうことが出来るのかという働きかけ）
 - ・町とのプロジェクトや保健所事務局との話し合いの場の設定（担当者だけの事業展開でなく、組織的に事務局を母体とした動き方をしている）
 - ・定期的な検討会の設定（アドバイザーの助言の場、評価に取り組む市町村同士の情報交換の場、保健所事務局との進捗状況の情報の共有化の場）
 - ・市町村へのタイムリーな支援　―出向いての支援―
 - その他、電話、FAX等の常のやりとり
 - ・市町村担当者が市町村内で動きやすい体制づくりへの支援（最初の市町村内の体制づくりは、保健所課長等と出向き、市町村主管課全員（課長以下）と話し合った）
 - ・情報・話し合ったことの共有化の努力
 - （記録の送付、研修情報の提供、研修復命の提供等）
 - ・保健所の知識レベルと同じレベルで話し合いできるレベルアップのための説明の努力・資料の提供―共に育つという姿勢―
 - ・スーパーバイザーや管内の大学のアドバイザーの協力が得られた
 - ・予算獲得が出来た（保健所側で独自の事業を実施していくためには予算の確保は大きい）

<課題>

保健所も市町村も業務量が増大

表2 評価に取り組んでいる4市町村の状況 (4市町村への聞き取り・自記式調査より一部抜粋)

市町村名	H町(モデル町)10年度～	F市(11年度～)	R町(左同)	O村(左同)
人口	24,960人	288,806万人	10,376人	8,461人
年間出生数	240人	2,861人	65人	80人
率	9.6	9.9	6.3	9.5
作成体制づくり	モデル町であったため、保健所組織にメンバーとして参加した。実際の評価計画づくりは、評価の実施は母子担当が主で行った。 (※保健所組織-保健所事務局長と町メンバーとの拡大事務局等)	係内職員全員で取り組んだ。 ・他職員、市民の参加については上位の保健計画策定年に併せて行うため係内のみ体制とした。 ・職員の研修強化を図った。 保健所の評価計画づくり研修、市保健業務研修での政策形成等。	保健福祉課保健係全員体制で取り組んだ。 ・保健所職員が出向いて評価計画の内容の説明を行ったことと町担当課長以下係内職員全員の内容の共有化を図れた。 ・保健所の評価計画づくり研修、検討会に出席し、職員のレベルアップを図った。	保健課保健係職員全員体制で取り組んだ。 ・保健所職員が出向いて目的や評価計画の内容の説明を行った。このことで、村担当課長以下係内職員全員の内容の共有化を図れた。
評価の取り組みにおいて必要とした条件(主に評価計画づくりにおいて)	・評価に費やす時間の確保(モデル町でありやすかった) ・名分ができて取り組む体制づくり ・評価に取り組む体制づくり ・保健所のタイムリーな支援 ・アドバイザーの確保	・評価計画づくりのための時間の確保 ・係内全員の評価計画づくりの必要性の共有化 ・パソコンの有効活用討議資料の作成、まとめが毎に同時進行でき、内容の共有と時間短縮が図れた。	・スタッフ間での意思統一(目的の共有化)が重要。また共通理解をして進めていくこと。 ・住民の声を反映させていくこと。	・スタッフ間での意思統一(目的の共有化)が重要。 ・統計学の知識が必要。 ・住民の声を反映させていくこと。
取り組んでのメリット・成果	【評価計画づくりの成果】 ・計画の進行管理組織の新設 ・計画推進事業の予算獲得 ・助言者との連携体制の確保 ・保健所との連携強化 【評価の実施の成果】 ・8年度とのデータの比較が客観的に示された。 ・関係者との連携強化 ・住民カーブが自主的な動きへ ・事業の改善につながった。	・母子保健活動のめざす目標や事業の目的が共有ができた ・事業の必要性の確認と事業の見直しが見えた。また新規事業の企画が見えた。 ・達成目標、評価の視点が明確になった。 ・各事業担当で進めてきた事業も市としての取り組みとして再確認できた。	・事業とおしおのつながり(関連)に気づいた。 ・母子保健計画や事業の推進のためには、各関係機関の連携が必須だということに気づいた。 ・生涯を通じて健康づくりの中での母子保健の位置づけが見えた。	・事業の見直しが見えた。 ・優先順位も含めて)計画の理念と事業の関連等スタッフ間で共有化できた。 ・スタッフ間で話し合う機会が増え、意思の共有ができた。 ・評価は不得手なもので事業をやっていたが各事業の目的や評価視点が明確になった。